

上越圏域の医療施設従事医師数は県平均以下 平成22年～平成30年の推移

	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年	平成30年	H28→H30	H22→H30
新潟県合計	4,207	4,274	4,353	4,386	4,444	58	237
上越圏域	415	436	445	444	466	22	51
糸魚川市	60	56	60	61	69	8	9
妙高市	25	24	27	24	25	1	-
上越市	330	356	358	359	372	13	42

日本共産党新潟県委員会はこのほど、新潟県内の市町村別医療施設医師数の推移をまとめました。これは厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師調査」（2年に1回、12月31日現在でまとめている）結果から作成したものです。平成22年から30年までの9年間の動きを見ることができます。このうち、新潟県全体と上越圏域内の3市のデータを抜き出して表にしてみました。

上の表と右下の表をごらんください。新潟県全体の医療施設医師数は、平成30年末現在で4444人。平成22年よりも237人増えていますが、人口10万人当たりの医療施設医師数は全国平均の246.7人を大きく下回る197.9人（全国44位）となっています。

さて、上越市ですが、平成30年末で372人となっています。平成22年よりは42人増えました。しかし、人口10万人当たりで見ると、県平均を下回る数値となっています。

人口10万人当たり医療施設医師数

	平成22年	平成30年
新潟県合計	177.2	197.9
上越圏域	144.6	175.4
糸魚川市	125.8	163.9
妙高市	70.5	78.9
上越市	161.8	193.9
全国	219.0	246.7
(新潟県順位)	44位	44位



30周年記念事業として建設した「地域の茶の間 さくら会館」の内覧会へ行ってきました。同会館は頸城区花ヶ崎の大池湖畔の、ある料理屋さんの建物だったものを改修して造られました。一階は地域の茶の間（レストラン）、二階は美術館として活用されます。

「あなたと鉄道写真展」の直江津駅、高田駅待合室で実施中。知っている人の写真があるかも知れませんよ。あなたもぜひ！

石塚仙堂、仙田菱畝の作品も展示

新型コロナウイルス感染症問題が浮上するなか、改めて医師を増やすことが大きな課題となっています。何とかしなければなりません。



【イヌヌマトラノオ】サクラソウ科の多年草。漢字で「犬沼虎の尾」と書きます。市道脇の側溝に咲きました。オカトラノオとヌマトラノオとの掛け合わせ（交配種）かと思えます。花はオカトラノオゆずり、葉はヌマトラノオと同じく細い。湿り気があったので、ここで咲いたのでしょう。花言葉は「たくましい」。写真は27日、吉川区小苗代にて撮りました。



「あなたと鉄道写真展」の直江津駅、高田駅待合室で実施中。知っている人の写真があるかも知れませんよ。あなたもぜひ！

はしづめ法一の活動レポート

No.1966 2020.7.5
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら


心臓の具合が悪く、入退院を繰り返した母。先週の土曜日、一九日ぶりにわが家に戻ってきました。

病院の看護師さんの話では、母の体調は入院前に戻ったとのことでした。でも、食事ひとつ見ても、以前より食欲が落ちていきます。顔もいくぶん痩せた感じがしました。

状態がいいときは出されたものの八割は食べる。でも状態の悪いときは三割しか食べない……。看護師さんからそう聞いたのは今回の退院の数日前でした。だから、母の食べ具合が一番気になっていました。

退院した日、家に戻った母はまずサイダーを飲み、ベッドの上で横になりました。そこまではいまままで通りです。

母の食欲がいまままでとは明らかに違っていることを意識したのは、その日の午後からのことです。

買い物に行くことにしていましたので、母に「何かほしんもん、ねかね」と聞いたら、「アイスクリーム」という言葉が返ってきました。

母に食べてもらうにはバニラの棒アイスがいいかなと思っていました。お店には、残念ながらバニラの棒はなく、「PINO」(ピノ)という箱入りのアイスクリームを買ってきました。コーヒーマイルク入れくらいの小さな入れ物にチョコやバニラなどのアイスがいくつも入っているのです。

買い物から家に戻ると、母はベッドから居間の電動イスに移動していました。「はい、アイスクリームだよ」そう言って差し出すと、母はバニラが入ったものを一個口に入れました。

いままでだったら、すぐに「まあ、うんめがど」と言ったのですが、この日は、口の中にアイスを入れたあと、しばらく目をつぶりながら、口をもぐもぐさせて、飲みこみました。そして、こう言ったのです、

「もう、いらん」。

アイスが思っていた以上に冷たく、それでも食べられないという意味だったのかも知れません。でも、私は、母の体がアイヌそのものを受け付けなくなってきたのだと思いました。

実際、「いらん」という言葉を発したときに、母は右手でも「もういらん」という仕草をしていました。「こんがにうんめもん、なして」と、私が言おうとして言わなかったのは、母の手を振る姿を見たからです。

母の体調の変化を意識したことがもうひとつあります。それは、退院して四日目でした。この日は、半日、母と一緒に居間で過ごしたのですが、母は電気コタツの中をのぞいてから、スイッチを入れるよう求めてきたのです。

この日は夏日、気温は二五度以上でした。家の中は外に比べて低いものの、寒さを感じるような気温ではありません。

「寒いがか」と尋ねると、「なして……。コタツはあったかい方がいいこて」

そう言って、母はちよっぴりさみしそうにしました。私からは、「こんがにあつつい日にコタツはいらんこてね」

と言って、その場合はコタツに電気は入れなかったのですが、夕方、母の手を触ってみたら、手が冷たかったのです。

ひよっとすると、母は居間で寒さを感じていたのではないかと、そう思ったなら、申し訳ない気持ちになりました。

母は九六歳。一般的に、高齢になるにつれ、皮膚の温度感受性がぶくぶくなると言われています。母もそうになっているのかも知れません。でも、アイスとコタツでそれだけではない変化を感じています。

増改築中の小林古径記念美術館を視察

6月24日午前、増改築中の小林古径記念美術館を視察してきました。今回の視察は新人議員研修(施設めぐり)の一環です。私のような対象外の議員も参加できるということで、参加してきました。

建物は平屋です。小林古径記念室のほか、富岡惣一郎、村山陽など上越市ゆかりの作家の作品展示室もありました。記念室にはレプリカではなく本物作品が展示されるということです。古径ファンは大歓迎でしょう。

この日は作品保管庫などバックヤードも見ることができました。良かったです。美術館は高田城址公園内にありますが、そこにあることを意識した建物配置、設計がされている点にも注目しました。同美術館は10月3日オープンの予定です。

写真は古径記念室、イラストは上越市ゆかりの作家作品展示室での視察の様子。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月24日(水)	7月1日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.060	0.050
東頸消防署	0.050	0.053
名立分遣所	0.050	0.057
高士分遣所	0.053	0.050